

緩和ケア内科

緩和ケア内科：選択研修

指導医：緩和ケア内科部長、緩和ケア内科医長、指導医の資格のある緩和ケア専従医

上級医：臨床経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の緩和ケア内科医、身体症状担当医、精神腫瘍医、および臨床経験7年以下の緩和ケア内科医、身体症状担当医、精神腫瘍医

指導者：緩和ケアチームの看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、栄養士

●一般目標（GIO）

患者さんの全人的苦痛を理解し、多職種アプローチによるチーム医療による苦痛の軽減を目指すことに関する知識と実践を経験する。

●行動目標（SBOs）

1. 臨床医として患者さんの苦痛を早期に把握し、対応できるようにする。
2. 他の職種とのチーム医療が適切に出来るようにする。

★総論

緩和ケアは「病気の時期」や「治療の場所」を問わず提供され、「苦痛（つらさ）」に焦点があてられることを理解する。

「何を大切にしたいか」は、患者・家族によって異なることを理解する。

いつでも、どこでも、切れ目のない質の高い緩和ケアを受けられることが大切であることを理解する。

患者さんの全人的な苦痛を評価し把握できる

身体的苦痛が評価し把握できる

精神症状が評価し把握できる

心理的苦痛が評価し把握できる

社会的苦痛が評価し把握できる

実存的苦痛が評価し把握できる

★各論

a. がん疼痛の評価と治療

がん患者の痛みの評価－痛みのパターン・強さ・性状が評価できる

がん疼痛の薬物治療－オピオイドの処方のかたがわかる

がん疼痛の非薬物療法・ケアについて理解し、適切な医療資源（認定看護師、がんリハビリテーションをはじめ専門的医療スタッフ）につなげることができる

b. 医療用麻薬の開始について

オピオイドの導入をスムーズに行うことができる

オピオイドの副作用を適切に説明することができる

オピオイドに対する患者・家族の不安や気がかりに適切に対応できる

c. 消化器症状

嘔気・嘔吐の評価ができる

嘔気・嘔吐の薬物療法ができる

嘔気・嘔吐のケアができる

d. 呼吸器症状

呼吸困難の評価ができる

呼吸困難の薬物療法ができる

呼吸困難の非薬物療法・ケアができる

e. せん妄

せん妄の評価ができる

せん妄の原因の理解と介入ができる

せん妄に対する薬物療法ができる

せん妄に対するケアができる

せん妄に関する家族への説明ができる

f. 気持ちのつらさ

気持ちのつらさの評価ができる

気持ちのつらさに対するケアができる

気持ちのつらさに対する薬物療法ができる

専門家へのコンサルテーションができる

g. コミュニケーション（对患者さん、チーム医療）

基本的なコミュニケーション・スキルを使うことができる。

がん医療において悪い知らせを伝える際のコミュニケーションスキル（SHARE）について知識を得る。

コンサルテーション・エチケットにおける 10 の原則について知識を得る。

h. 地域連携

いつでも、どこでも、質の高い「切れ目のない緩和ケア」を提供するために、以下のことができるようになる

患者・家族の意向を聴く

地域の緩和ケアの資源（リソース）や制度を知り、利用できる。

● 方略

1. 緩和チームにおいて指導医のもとに、全入院患者を対象とし研修を行う。

2. チームカンファランスに出席し、各職種との意見交換を行い、ケアの方針を決定する。

3. チーム回診に同行する。

4. 各種セミナー、研修会などに参加する。

<テキスト>

緩和ケア研修会参加者ハンドブック

その他資料など。

★週間予定

時間	月	火	水	木	金
8:00-					
8:30-	外来および病棟回診	外来および病棟回診	外来および病棟回診	外来および病棟回診	外来および病棟回診
9:00-					
9:30-					
10:00-					
10:30-					
11:00-					
11:30-					
12:00-	昼食休憩	昼食休憩	昼食休憩	昼食休憩	昼食休憩
12:30-					
13:00-	カンファレンス準備	病棟回診・病棟カンファレンスなど	病棟回診・病棟カンファレンスなど	病棟回診・病棟カンファレンスなど	病棟回診・カンファレンスなど 1500～心不全カンファレンス
13:30-	緩和ケアチームカンファレンス				
14:00-	病棟回診・病棟カンファレンスなど				
14:30-					
15:00-					
15:30-					
16:00-					
16:30-	小講義・まとめ	小講義・まとめ	小講義・まとめ	小講義・まとめ	小講義・まとめ

●評価

- ・ 病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医、指導者が行う。ローテーションごと。
- ・ 研修医からの評価も必ず施行する。ローテーションごと。